

2. 家畜伝染病防疫対策チームの新設による初動防疫体制の強化

豊後大野家畜保健衛生所

○（病鑑）山田倫史、佐伯美穂、梅木英伸、久々宮仁三、阿部正八郎

【はじめに】2010年4月から翌年3月にかけて国内では、口蹄疫（以下 FMD）や高病原性鳥インフルエンザ（以下 HPAI）が多発した。本県においては、宮崎県での FMD 発生時は県境防疫として管内9カ所（県内15カ所）の消毒ポイントを設置、また HPAI 発生時には管内2市が制限区域内となり6カ所の消毒ポイントの設置等の防疫措置を実施し、侵入防止を図った。その後、本県では HPAI が発生し、迅速な防疫措置により疑似患畜確認から24日目で終息した。しかし、これらの防疫措置を実施するにあたり、（1）防疫作業前の事前調査の遅れによる、資材や人員配置の不備（2）防疫活動時の連絡と関係部署との連携不足により、情報及び指揮系統の混乱等の問題点が認められた。これらの問題点とあわせて、（3）本年4月に改正された家畜伝染予防法による飼養衛生管理基準の遵守状況の確認を行い、初動防疫体制の強化を図ったので報告する。

【取り組み】（1）家畜伝染病防疫対策チーム（以下 B-SAT）の設置：B-SAT は、迅速かつ的確な初動防疫を実施するため、事前調査からと殺処分の現地リーダー等として活動する機動性を持った組織として、家畜保健衛生所（以下、家保）獣医師及び畜産関係普及員の28名で構成された。また、同チーム内に FMD 牛・FMD 豚・HPAI 鶏の作業部会を設置し、管内では特に FMD 牛の保定・と殺処分法等の実践演習と防疫計画立案研修を実施した。（2）TV会議システム及び防疫マップシステムの拡充：2005年度に家保と県庁間で整備した TV 会議システムを、特定家畜伝染病発生時に現地防疫支援部として活動する振興局にも拡充し、連絡体制を強化した。また、防疫マップシステムに埋却候補地や道路情報等の検索機能を追加し、総合的な防疫対策システムの充実を図った。（3）埋却地候補地の調査：従来から調査していた家きん飼養農場の埋却候補地調査に加え、牛・豚飼養者を対象として聞き取り調査を実施した。また、聞き取り調査した埋却候補地は、実際に掘削が可能かどうかについて、大規模農場より順次、農業土木関連部署と現地調査を実施している。

【まとめ】（1）B-SAT による演習及び検討会は3部会でのべ15回実施し、畜種・飼養形態毎における保定方法やと殺処分方法等の習熟ができた。また、防疫作業に精通した B-SAT 職員が家保以外の所属に配置されたことで振興局内に防疫活動への助言・補佐を行える体制が整えられた。（2）TV会議システムの設置箇所の拡充により関係部署との迅速な連絡体制が強化された。また、防疫マップシステムの強化により埋却地候補地及び封鎖道路の選定等が効率化された。（3）管内の牛・豚飼養者の96.6%が埋却候補地を保有しており、保有していない飼養者については、現在、埋却候補地の保有について指導を実施している。

今後とも万一発生の際に迅速かつ的確な初動対応が行えるよう、防疫演習等を通じて検証を行い、関係機関及び部署と連携し事前対応型の防疫体制の構築に努めていきたい。